

有明工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	保健体育
科目基礎情報						
科目番号	0013		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電気工学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1		
教科書/教材	最新スポーツルール(大修館書店)					
担当教員	塚本 邦重,野口 欣照					
到達目標						
1.集団行動については、集団としての秩序が保たれることができる。 2.新体力テストについては、体力、運動能力の現状を把握できる。 3.ハンドボールについては、相手との攻防を展開することができる。 4.剣道については、相手との攻防に応じ て稽古することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	すばやく行動し、リーダーとして の秩序を保つことができる。		集団の一員として、集 団としての秩序を保 つことが できる。		集団の一員として、集 団としての秩序を保 つ弊害となっ てしま う。	
評価項目2	自身の強い体力、高い 運動能力の現状を把握 て できる。		自身の体力、運動能力 の現状を把握て できる。		自身の体力、運動能力 の現状を把握て きない。	
評価項目3	技能を高め、あらかし め作戦を立てて、攻防 を展開することか て できる。		相手との攻防を展開 することか て できる。		相手との攻防を展開 することか て きない。	
評価項目4	観見の目付けを生か し、相手との攻坊に応 し て稽古することか 得 できる。		相手との攻防に応し て稽古する ことが て できる。		相手との攻防に応し て稽古する ことが て きない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習教育到達目標 A-1						
教育方法等						
概要	運動についての科学的理解に基づ き、合理的な練習によって運動技能を高めると共に、生活における運動の意義についての理解を深め生活を健全にし、明るくする能力や態度を養うことが て できる。 運動における競争や共同の経験を通して、公正、協力、責任など の態度を養い、社会生活における望ましい行動の仕方か て できる。 ハンドボールは、チームの課題や自己の能力に応し て技能を高め、作戦を生かした攻防を展開して試合か て できる。 剣道は、自己の能力に応し て技能を高め、相手の動きに対応した攻防を展開して稽古や試合か て できる。					
授業の進め方・方法	実技中心の授業を進めていく。 理解度テストは、授業中に小テスト形式で 行う。					
注意点	実技試験の成績50%、理解度テスト20%、授業中の態度等の平常点を30%の比率で、総合的に評価する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	説明 集団行動		授業における注意事項を知ることか て できる 集団で の秩序を保つことが て できる	
		2週	新体力テスト		体力、運動能力の現状を把握することか て できる	
		3週	新体力テスト		体力、運動能力の現状を把握することか て できる	
		4週	ハンドボールパス		ボールの操作、場面に応し て活用する身体の扱いを理解・実践することか て できる	
		5週	シュート		様々なシュート、場面に応し て活用するボールの扱いを理解・実践することか て できる	
		6週	連携フーレー		連携からのパスワーク、フックフーレーを理解・実践することか て できる	
		7週	チームフーレー		攻防の集団的技能を理解・実践することか て できる	
		8週	チームフーレー		攻防の集団的技能を理解・実践することか て できる	
	2ndQ	9週	試合		個人的、集団的技能を生かし、試合を進めること か て できる	
		10週	試合		個人的、集団的技能を生かし、試合を進めること か て できる	
		11週	試合		個人的、集団的技能を生かし、試合を進めること か て できる	
		12週	試合		個人的、集団的技能を生かし、試合を進めること か て できる	
		13週	試合		個人的、集団的技能を生かし、試合を進めること か て できる	
		14週	試合		個人的、集団的技能を生かし、試合を進めること か て できる	
		15週	試合		個人的、集団的技能を生かし、試合を進めること か て できる	
		16週	実技試験			
後期	3rdQ	1週	剣道 説明 基本的技能		授業における注意事項を知ることか て できる 礼法、構え、体捌きを理解・実践することか て できる	
		2週	基本的技能		竹刀捌き、体捌きを理解・実践することか て できる	

		3週	基本的技能	面、小手、胴の打ち方、受け方を理解・実践することかゝてゝきる
		4週	基本的技能	面、小手、胴の打ち方、受け方を理解・実践することかゝてゝきる
		5週	対人的技能	仕掛けて行く系統の技を理解・実践することかゝてゝきる
		6週	対人的技能	連続の技を理解・実践することかゝてゝきる
		7週	対人的技能	引き技を理解・実践することかゝてゝきる
		8週	対人的技能	応しゝ技、返し技を理解・実践することかゝてゝきる
	4thQ	9週	稽古	打突部位への打突を理解・実践することかゝてゝきる
		10週	稽古	打突部位への打突を理解・実践することかゝてゝきる
		11週	稽古	打突部位への打突を理解・実践することかゝてゝきる
		12週	稽古	打突部位への打突を理解・実践することかゝてゝきる
		13週	試合	相手の動きに対応した攻防を理解・実践することかゝてゝきる
		14週	試合	相手の動きに対応した攻防を理解・実践することかゝてゝきる
		15週	実技試験	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	3	
				集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	3	
				日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。	3	
				ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	3	
				学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	3	
				市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	3	
				チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	3	
				組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	3	
				先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	3	
				目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	30	0	0	100
基礎的能力	70	0	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0